



人間にも、しっぽのあとがあるって本当なの

「び骨」というおしりの骨

わたしたち人間の体には、どこをさがしてもしっぽは見られません。しかし、お母さんのおなかの中で、命の始まったばかりの赤ちゃんには、育ち始めて2か月めくらいまでの間、ちゃんと、長いしっぽがあるのです。このしっぽは、大昔の、人間の祖先の動物から、人間がだんだんと進化し、姿を変えてきたという証拠なのです。

この、お母さんのおなかの中の赤ちゃんのしっぽは、3か月の初めにはなくなり、何個かの、しっぽのなごりのような骨だけが残ります。これを「び骨」といいます。よく「びてい骨」といっているのは、ここのことで、背骨の下のところであり、人間ならだれでももっている、おしりの骨です。

人間のしっぽがなくなったのは

サルやネコなど、しっぽはいろいろな動物にはあるのに、人間には、生まれる前の赤ちゃんの、ほんの一時にしかありません。

ほかの動物には残っているのに、人間のしっぽがなぜなくなったか、その理由については、まだ、よくわかっていないのです。

人間だけでなく、チンパンジーやオランウータンなど、しっぽのないサルもいます。これらは、サルの中でも、かなり人間に近いサルだといわれています。（監修・保志 宏）



命の始まったばかりの赤ちゃんには、育ち始めて2か月めくらいまでの間、ちゃんと長いしっぽがある。

